



IUFRD-J NEWS

No. 113 (2014.12) —

第 24 回世界大会特集

第 24 回ユフロ世界大会開催される

森林総合研究所 大河内勇

大会について

2014 年 10 月 5～11 日に、アメリカ合衆国のソルトレイクシティで、第 24 回ユフロ世界大会が開催されました。ユフロ世界大会は前회가 2010 年（ソウル）でしたので、それまでの 5 年に 1 回のサイクルではなく、4 年で開催されたわけです。しかし、サイクルが変わるわけではなく、次回は 5 年後の 2019 年になります。

6 日には開会式が開かれ、挨拶に続き、ネイティブアメリカンの伝統文化が紹介される（写真-1）など、盛り上がりしました。また、最初の基調講演としてニュージーランドカンターベリー大学の Andy Buchanan 教授が、「現代の木造ビル」について話され、クライストチャーチの地震ではコンクリートビルは修復不能の亀裂が入ったのに対し、木造は修復ができ、エンジニアードウッドによる木造ビルが地震対策として良いという興味深い話をされました。ユフロの最初の基調講演が木材利用であったことは、林業と林産業の連携の重要性が示されたものと思います。表彰として、ホスト国の Scientific Achievement Award が、バージニア工科大学の Dr. Burkhart 教授、UCLA の Dr. Hubbell 教授、イエール林業・環境学大学院の Dr. Oliver 教授に贈られました。次に、ユフロの Scientific Achievement Award として Shibu Jose 博士（アメリカ）、Aino A. Mäkelä-Carter 博士（フィンランド）、Sally Aitken 博士（カナダ）、Robert Kozak 博士（カナダ）、Jürgen Bauhus 博士（ドイツ）、Christopher Harwood 博士（オーストリア）、Richard Hamelin 博士（カナダ）、Guiseppe Scarascia

Mugnozza 博士（イタリア）、Jolanda Roux 博士（南アフリカ）が表彰されました。

6 日から 11 日まで、8 日を除く毎日、基調講演と準基調講演があり、また、テクニカルセッションが「森林と人」「森林の生物多様性と生態系サービス」「森林と気候変動」「森林と水の相互作用」「森林バイオマスとバイオエネルギー」「環境保全型の未来に向けた森林と林産物」「変動する世界における森林の健全性」「学生のためのセッション」にわかれて開催されました。いくつかのセッション、準基調講演では、日本の参加者が講演し、また、座長を務めました。ソウル大会に比べると、新しい概念でまとめた意欲的なテーマを掲げたセッションが多かったこともあり、私が見た範囲では良く賑わっていました。これと対照的にポスター発表の方は、世界大会



写真-1 開会式でのソルトレイクシティ在住ネイティブアメリカン伝統文化紹介（写真提供：IUFRD-J 事務局）

事務局からあまり周知されていなかったためか、いつも閑散としていました。ユフロではできるだけ口頭発表を希望すべしと思われます。なお、ポスター賞として9名の方が選ばれましたが、日本から2名、Nyein Chanさんと、Tsutomu Kanasashiさんが選ばれています。おめでとうございます。また、この他にエキシビジョン、サイドイベント、ツアー、ビジネスミーティングが開催されました。エキシビジョン会場では、様々な企業、NGOの展示をする中で、スナックやコーヒーが振る舞われ、木製楽器による演奏(写真-2)もありました。日本からは森林総合研究所のREDD研究開発センターが展示していましたが、今回はREDD関係のセッションが多かったこともあるのか、賑わっていました。

プログラムは以下からダウンロードできます。

http://iufro2014.com/wp-content/uploads/2014/09/14-USD-0003.ScientificProgram_Web1.pdf

大会の毎日のニュースはこちらからダウンロードできます。

<http://iufro2014.com/sub-news/connect-with-us/>

国際評議会について

ユフロの国際評議会は10月7日と10日の2日に分けて開催されました(写真-3)。7日には、会長の挨拶、出席の委任が122国の1/4以上になったので規約により会議が成立したことの表明、議事の承認、2010年の国際評議会の議事録の確認に続き、会長、副会長、常任理事の報告がありました。5年間で327の会合があったこと、ユフロのSPDC(Special Programme for Developing Countries)の報告、会費収入が減少傾向にあること等が報告されました。この後、ユフロの戦略* 2015-



写真-2 木製楽器による演奏紹介(国際木材文化学会(International Wood Culture Society)の展示場イベント)(写真提供: IUFRO-J事務局)

*: IUFRO Task Forces, IUFRO 本部紹介参照 (p.15)

2019が採択されました。同戦略については、7月に原案が提示され意見照会があり、不完全と思われる部分について皆様の意見を伺い、提案したところ。今回の最終案では、その部分は提案とは異なりますが、記述がシンプルかつ包括的な文章に変更されていました。そして、2019年の次期大会の開催地の議決があり、ラテンアメリカで初の大会となるブラジルのクリチバCuritibaが候補地として提案され、承認されました。クリチバはブラジルワールドカップの会場でもあったので、ご存じの方もいると思いますが、ブラジル南部の標高1,000mの高所にあり、以前に8月に訪れたときは、寒くて驚いた経験があります。さらに今大会の声明文の文案が示され、討議されました。

10日の会議では、はじめにユフロの規約の変更について承認されました。変更点は小さく、運営に関する技術的な事項です。次に、ユフロもその傘下になる国際科学会議ICSUからの謝辞があり、昨年日本でも講習会を開催したGFISについても言及がありました。それに続き、本評議会の一環の役割である、会長、副会長、理事の選挙が行われました。ただし、会長副会長候補はこの時点では確定しておらず、はじめに拡大理事会メンバーによる投票で候補の確定が行われ、続いて評議会で候補の信任投票となりました。反対票もありましたが、全員が承認されました。次期会長は南アフリカのMike Wingfield博士、ディビジョンの副会長はスウェーデンのBjörn Hanell博士、タスクフォースの副会長はアメリカ合衆国のJohn Parrotta博士が選ばれました。この次期会長選挙の結果はその日のうちにプレスリリースされました。さらに理事の選挙があり、信任投票で次の方々が選ばれました。ディビジョン(以下Dと略す、IUFRO本部紹介参照(p.15)) 1: John Peter Skovsgaard博士(スウェーデン)、D2: Yousry El-Kassaby博士



写真-3 国際評議会の様子、休憩時間(写真提供: 東京大学酒井秀夫氏)

(カナダ), D3: Woodam Chung 博士 (アメリカ合衆国), D4: Jean-Luc Peyron 博士 (フランス), D5: Pekka Saranpää 博士 (フィンランド), D6: Tuija Sievänen 博士 (フィンランド), D7: Eckehard Brockerhoff 博士 (ニュージーランド), D8: Jean-Michel Carnus 博士 (フランス), D9: Daniela Kleinschmit 博士 (ドイツ)。

この後、名誉会員として元会長の韓国の Don Koo Lee 博士が推薦され、承認されました。

また、会長の指名理事には Shirong Liu 博士 (中国), John Innes 博士 (カナダ), Ben Chikamai 博士 (ケニヤ), Jung-Hwan Park 博士 (韓国), Manuel Guariguata 博士 (ベネズエラ) が信任されました。

ユフロの国際評議会に初めて出席しましたが、選挙は事実上信任投票であり、対立候補がいないので無風選挙になっていて、戸惑いました。また、今回の会長、副会

長、理事 (指名理事を除く) には、アジアからも女性も候補に選ばれておらず、やや残念に思いました。一方、会長に南アフリカから Mike Wingfield 博士が選ばれ、次期開催地にラテンアメリカのブラジルが選ばれた意義は大変大きいと思います。成功が期待されます。今回の大会に限って言えば、参加費が比較的高価であったこともあるのか、参加者はヨーロッパ (675 名)、北米 (891 名) で大半を占め、アジア (508 名)、ラテンアメリカ (263 名)、アフリカ (155 名) は多くありませんでした。その中で、日本人の参加は少なくはなかったので、今後プレゼンスを高めていければと思います。そのためには、大学、研究所ともに組織的に対応すべきかと思えます。次回は地球の裏側での大会ということで、旅費は高くなると思いますが、皆さんの参加を期待したいと思います。

第 53 回ユフロ拡大理事会に出席して

東京大学 酒井秀夫

はじめに

第 24 回ユフロ世界大会が、10 月 5 ～ 11 日、米国ソルトレイクで開催された。約 100 か国から約 2,500 人の参加があり (出身国別詳細は図-1 を参照)、1,200 件の口頭発表、1,200 件のポスター展示があった。国際展示場やサイドイベント等への企業・NGO 参加者を含めると、参加者の総計は 3,500 人以上であった。世界大会に先立ち、10 月 3 ～ 4 日に終日拡大理事会が大会会場の向かいのマリオットホテルで開催された (写真-1, 2)。各部門*のコーディネータ (以下、DC) は理事会構成員であり、副コーディネータは理事会構成員ではないが拡大理事会に出席することができる。小生は第 3 部会 (以下、D3) の副コーディネータとして出席した。日本からの出席は小生のみであったので、ここに報告する。資料は事前にメールで送られ、会場であらためて配布されることはなかった。会議場は無線 LAN が使用でき、必要ならばインターネットを通じて資料を閲覧することができた。

議事内容

拡大理事会は、2013 年にコスタリカ San José で開催された第 52 回理事会の議事録の承認から始まった。次

2014 IUFRO World Congress Delegates by Region
(and countries within the region represented)

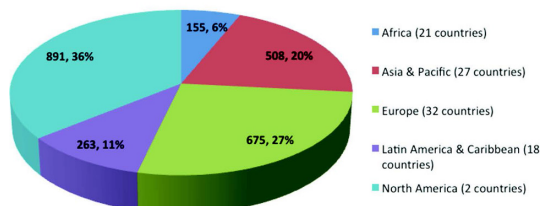


図-1 世界大会参加者 2,492 人の出身国別詳細, IUFRO CONGRESS DAYLYNEWS, Congress Attendance Statistics より (参照: http://iufro2014.com/wp-content/uploads/2014/10/IUFRO3rdNewsletter_final.pdf)



写真-1 拡大理事会会場

* : IUFRO Divisions, IUFRO 本部紹介参照 (p.15)



写真-2 拡大理事会メンバー（前列右から2番目が筆者）

いで Niels Koch 会長, Mike Wingfield 副会長, Su See Lee 副会長, Alexander Buck 事務局長から今期の簡単な報告があり, 承認された。引き続き, 今期の各部会の報告に移り, 次期部会長が出席している部会は新部会長の抱負が述べられた。どの活動報告も一度は日本でワークショップが開催されており, 日本も貢献していることがわかる。前回 2010 年にソウルで開催された世界大会で 9 つのタスクフォース* (以下, TF) が設けられ, どの部会も TF との関係に苦勞されていることが述べられた。

D3 は他の団体や学会, 傘コミュニティ, 政策の流れとの関係について触れられた。D5 も他の部会との交流が報告された。D4, D5 からは, 若い世代をユフロに集めるにはどうしたらよいかという動議が出され, 一般論なので, 議論はコーヒブレイクへと振られた。D6 からは様々な教育レベルでの林業教育の改善が訴えられた。D7 からは出版計画が報告された。D9 は地域のバランスを考えて中南米の研究グループ (以下, RG) の活動が報告された一方で, 活動していない RG があることも報告された。この報告では, 若い人にユフロに興味を持ってもらうにはどうしたらよいかについて集中して語られ, DC や Officeholder の役職に積極的につけさせる, 経験を踏ませてチャレンジをさせる, しかし, 経費は上がっている, 若い人は教育に多忙である等の現状が述べられた。また, どのくらいの会員が政策立案に関わっているのか, IPCC にたくさんの知識が集積しても解決にならない, 森林は多機能すぎる, 知識ギャップがある等の意見が出されたが, いずれも明確な回答はなかった。

次に各 TF からの報告があった。地域, 予算, 政治, 文化, 知識, 性のバランスが皆違う中で TF のむずかしさが述べられ, 部会間の交流に関して積極的にコーディネートしてほしいという意見が上がった。TF が多すぎる, 時限を作れ, 次期はもっとダイナミックに, 外部の科学者も巻き込む必要がある, グローバルレベルで貢献しなければ, 専属のマネジャーを置いてファンドを集めたらなどの意見が出されたが, とくに結論はなかった。最後は TF をまとめてこられた Lee 副会長に謝辞が述べられた。

これらの報告の合間に, 事務局から新入会員, 退会会員の報告があり, ここでは議論はなかったが, のちに予算との関係で退会理由の説明を求められた。また今回の発表者数の分析があった (図-1)。

Michael Kleine 副事務局長を中心に各担当者から, ユフロ事務局がリードして行っている SPDC (Special Programme for Development of Capacities), WFSE (World Forests, Society and Environment), GFIS (Global Forest Information Service), GFEP (Global Forest Expert Panels), アフリカの REDDES に関する ITTO の活動報告があった。GFIS では, つくばでの開催も紹介され, 科学と政策の相互作用や何に焦点をあてて強調するのかの質問があった。この後の財政報告では, GFEP におけるフィンランドの財政支援が大きいことが述べられた。

会長の指名理事からの報告があり, ケニアの Ben Chikamai 氏から会長への謝辞が述べられた。各部会報告でも, ロシアや東欧の研究所の停滞が話題に上がっていたが, Elena Kulikova 女史からは, ロシアでは研究機関が減少し, 1992-2010 の間に研究者の人員整理の結果, 残っている研究者の平均年齢が 65 歳であるとの報

* : IUFRO Task Forces, IUFRO 本部紹介参照 (p.15)

告があった。会長からは広大な森林地帯でもあるのにとのコメントがあり、ユフロのアクションがいるのでは、いや何ができるのかとの意見があり、ポーランドの Piotr Paschalis-Jakubowicz 氏からロシアの研究者仲間もユフロとコンタクトをとりたがっているとの発言があり、同氏と D9 でこの問題に取り組んでいくことになった。Shirong Liu 氏からは、インドネシア、中国でワークショップを開催し、アジアでの強化を図ったことが述べられた。Ulrike Pröbstl-Haider 女史からユフロの出版戦略に関するアンケート結果の紹介があった。ユフロの出版物が所属組織の業績にならない、プロシーディングスのコストがかかる、Springer や Elsevier がフォローしないなどの回答があったことが紹介された。

2 日目は予算報告に移った。2013 年のおもな収入は、会費が 241,249 ユーロ、寄付 1,448,347 ユーロ、利子 11,219 ユーロである。寄付の内訳は、オーストリア政府 527,139 ユーロ、フィンランド政府 300,000 ユーロ、フィンランド METLA 231,620 ユーロ、韓国 KFRI 143,387 ユーロ、米国フォレストサービス 115,304 ユーロ等である。おもな支出は、給与 429,247 ユーロ、業務外注 137,973 ユーロ、旅費 59,817 ユーロ、通信 26,312 ユーロである。前会長 Don Koo Lee 氏から、10 年前は寄付が集めやすかったが、だんだんむずかしくなっている、韓国の ODA でもなぜユフロになのかの声が出てきているとのことである。オーストリア政府の貢献が大きいこと、1999 年までは日本の貢献が大きかったことも披露された。財政に関しては、キャンペーンしたらどうか、アクティビティを示す必要がある、ターゲットはあるのかなどの意見があったが、資金確保の具体策に関しては、毎回のようには出口が見つからない。

今回の大会では、フェイスブック、ブログコンペ、会場の状況をユーチューブに投稿、News Spotlight, Highlight Congress, Website など情報発信に力を入れたことが報告された。

ここで事務局長に Buck 氏が再選された。次期副会長に今回の大会で CSC (Congress Scientific Committee) 委員長を務めた John Parrota 氏が推された。今回功績賞を受賞した COC (Congress Organizing Committee) 委員長の Richard Guldin 氏によれば、プロシーディングスの質を高めるために掲載の要旨はすべて査読修正が入っているとのことであり、Parrota 氏の功績も大きかったものと推測される。

ユフロ運営委員会 MC (Management Committee) が中心になって草案を作成し、理事と IC (International Council) に事前に意見を求められていた Strategy

2015-2019 が示され、10 月 7 日、10 日に開催予定の IC ミーティング (国際評議会) で承認されることになった。

閉会式に向けて、CSC が科学的内容に焦点を絞って草案した今回の大会宣言の文案を国際評議会に送る前に、グループに分かれて推敲を行った。大会宣言は、2015 年南アフリカ Durban で開催予定の FAO 世界林業会議に地球規模の問題と科学的メッセージとして送られる。

ユフロ表彰委員会の Shirong Liu 氏から、Scientific Achievement 賞 10 件、博士論文賞 9 件、学生修士論文賞 6 件の報告があり、ポスター賞選考の依頼があった。日本から吉田美佳氏 (東京大学) が学生修士論文賞を受賞した。国際評議会に Lee 前会長を名誉会員として推薦する決議を行った。

今後の予定として、次回の拡大理事会は 2015 年 4 月にウィーンで開催される。次回世界大会は 2019 年ブラジル Curitiba で開催の報告があり、ブラジルフォレストサービスの同意書が示された。2017 年はユフロ設立 125 年にあたり、ドイツで式典が執り行われる。これにあわせてユフロの歴史を出版計画中であることが示された。

国際協力関係として、FAO, IFSA (International Forestry Students' Association)、オーストリア政府の代表から挨拶をいただいた。IFSA 代表の May Anne Then 嬢と会長との間で覚書が更新された。

今期、Koch 会長の功績として、アフリカ、ラテンアメリカに関わりを深く持ったことが上げられる。Lee 前会長は、ユフロはオーストリアのものでない、あなたのものだとメッセージが述べられ閉会した。

国際評議会

10 月 7 日、10 日午後、マリOTTホテルで国際評議会が開催された。ここで会長、副会長の信任投票があり、正式に認められた。次回ブラジル開催も正式に認められた。Lee 前会長も名誉会員になった。コスタリカで開催された理事会には出席できなかったため、次回大会がブラジルになった経緯や、次期役員選出の経緯の議論に参加できなかったが、今回すでにおおよそのルールが敷かれており、この国際評議会が次期体制が正式に決まった。

おわりに

理事会メンバーは選挙によって選出される。次期は拡大理事も含めて日本からのメンバーはゼロになる。次期

は各部会の研究グループの活動を活発に行い、次々期にはせめて副コーディネータを日本から送り出したい。帰路空港で Buck 氏に会ったが、引き続き窓口になってほしいとのことであった。IUFRO-J と協力して情報の伝達に努めたい。今回の世界大会の研究発表を垣間見て、

林産業の動向に関する研究の影が薄いことが気になった。日本森林学会の研究発表件数は毎年多いが、よりグローバルな視点で研究を位置づけていくことも日本の研究戦略として望まれよう。

第 24 回 IUFRO 世界大会の概要

森林総合研究所 森林管理研究領域 高橋正義

はじめに

2014 年 10 月 5 日から 11 日にかけて第 24 回 IUFRO 世界大会がアメリカ合衆国、ユタ州のソルトレイクシティのソルトパレスコンベンションセンター (Salt Palace Convention Center) で開催されました。大会の全体概要と展示会に出展した森林総合研究所 REDD 研究開発センターの様子を紹介します。

ユタ州とソルトレイクシティ

大会が開かれたユタ州とソルトレイクシティについて、少し紹介します。ユタ州はアメリカ合衆国西部に位置し、アイダホ州、ワイオミング州、コロラド州、ネバダ州、ニューメキシコ州と接しています。大陸内部で、比較的標高が高いことから、乾燥した砂漠から樹木が茂る山岳まで様々な景観がみられ、5つの国立公園がある自然に恵まれた州です。

ソルトレイクシティはユタ州北部に位置する州都で、人口約 19 万人 (アメリカ合衆国センサス局 2013) の最も大きな都市であり、長野県松本市と姉妹都市の関係があります。全米でも屈指の良質の雪が降る人気のスキー場が近郊にあることから、2002 年の冬季オリンピック

の会場に選ばれたため名前を記憶している方も多いことでしょう。実はユタ州、ソルトレイクシティは、日本、あるいは日系人との関わりが深い州／街で、ソルトレイクシティの中心部に位置するかつてのユニオンパシフィック鉄道の駅舎 (写真-1, 2) には明治 4 年にアメリカ合衆国を訪れた岩倉使節団が積雪で約 3 週間滞在したこと、その際の歓待を契機に早くから日本人が移民してきたことなどを記念するプレートが掲げられています (写真-3)。旧駅舎近くには日系の基督教教会 (写真-4) や仏教寺院 (写真-5) などもあり、日系人コミュニティの交流の場となっているようでした。

IUFRO2014 大会の概要

今回の世界大会は先にも紹介したように 2014 年 10 月 5 日から 11 日の 7 日間の日程で開催されました。大会運営はアメリカ合衆国森林局 (U.S Forest Service)、アメリカ合衆国林学系大学協会 (NAUFRP, The National Association of University Forest Resources Programs)、アメリカ合衆国林業技術者協会 (Society of American Foresters, 以下 SAF)、カナダ林学会 (The Canadian Institute of Forestry / Institute Forester



写真-1 ユニオンパシフィック鉄道の旧駅舎



写真-2 旧駅舎の内部

du Canada, 以下 CIF/IFC) によって行われました。そのため, SAF の年次大会 (2014 National Convention) と CIF/IFC の年次総会 (Annual General Meeting) も



写真-3 岩倉使節団来訪記念のパネル



写真-4 日系キリスト教会 (Japanese Church of Christ)



写真-5 ソルトレイク仏教寺院 (Salt Lake Buddhist Temple)

期間を重ねる形で同じソルトパレスコンベンションセンターで開催されました。大会のニューズレターによると, 北米やヨーロッパを中心に 2,492 名の参加登録があり, アジアから全体の約 2 割, 508 名が参加したようです。同時に開催された上記 2 つの大会総会の参加者もあわせると相当な数の森林研究者がソルトレイクシティに集まったものと思われます。詳しくは IUFRO2014 のレビューター

http://iufro2014.com/wp-content/uploads/2014/10/IUFRO3rdNewsletter_final.pdf

をご覧ください。

IUFRO 世界大会では, 5 つの Keynote Plenary Session, 19 の Sub-Plenary Session, 160 以上の Technical Session が設定されました。Keynote Plenary Session (写真-6) のうち 1 回は 3 つの大会総会合同の Session として開催され, 3 つの合同総会をお祝いするチャールズ皇太子からのビデオメッセージ (写真-7) も流され



写真-6 Keynote Plenary Session の様子



写真-7 チャールズ皇太子のビデオメッセージ

ました。

Technical Session は8つのテーマ、すなわち「森林と人 (Forests for People)」「森林の生物多様性と生態系サービス (Forest Biodiversity and Ecosystem Services)」「森林と気候変動 (Forests and Climate Change)」「森林と水の相互作用 (Forest and Water Interactions)」「森林バイオマスとバイオエネルギー (Forest Biomass and Bioenergy)」「環境保全型の未来に向けた森林と林産物 (Forests and Forest Products for a Greener Future)」「変動する世界における森林の健全性 (Forest Health in a Changing World)」「学生のためのセッション (Special Session for Students and Young Scientists)」に分類されて1,300以上の口頭発表が行われました。立ち見であふれんばかりの聴衆を集めるセッションも多く、限られた時間の中で発表と質疑応答が行われていました(写真-8)。セッションの数を比べると「森林と人」が最も多く、「森林と気候変動」「森林の生物多様性と生態系サービス」の順であったことから、これら3つのテーマは世界的に見ても関心の高いテーマだと見ることができます。実際に、大会閉会式で発表されたソルトレイクシティ宣言(参考資料 p.16)は、そのような世界大会での重要テーマが盛り込まれたものとなっています。ちなみに、Technical Session で日本からの参加者がオーガナイザーを務めるセッションは12、口頭発表が約40だったようです。

ポスター発表はIUFROの従来からある8つのDivisionごとに約1,200の発表が行われました。このうち、日本からのポスター発表は約60でした。同時に開催されたSAFの発表もあわせ、すべてのポスターが一つの非常に大きな会場に掲示されました。私は北海道で台風被害を受けたもののその後順調に回復し、針広混交林となったことを時系列の空中写真解析から明らかにし

た研究をポスター発表しました。私の発表はTechnical Session : Forest Resistance and resilience in the face of natural hazards の発表としても位置づけられており、ここでも簡単な発表紹介をすることが出来ました。ポスター発表のコアタイムは設定されていましたが、あまり周知されていないためか発表者、見学者ともにまばらであったため、少々残念な印象を受けました。

イン・ कांग्रेस・ ツアー (In-Congress Tours)

大会中日の10月8日(木)にはイン・ कांग्रेस・ ツアーが行われ、参加者たちは様々なテーマが設定された27のコースに分かれて参加しました。私は「Forest Operations and Management in Northern Utah」に参加し、1日をかけてユタ州北部やアイダホ州南部を見学しました。最初に、山火事予防のため林業機械を使って小径木をチップ化する現場(写真-9)を見学しました。火災予防のためのとはいえ、今後成長し木材として利用可能になるであろう小径木をチップ化するのはやや驚きでしたが、ひとたび山火事が起こると非常に大きな損失になってしまうことを防ぐための対処であり、双方を天秤にかけた上で必要に応じて行っているようでした。森林火災対策は森林局にとって最も重要度の高い仕事と位置づけられているようで、現地で説明してくれた森林局所属の研究者は、山火事の多寡によって研究予算が増減する現状を教えてくださいました。

次に、アイダホ州南部にある小規模製材工場を見学しました。パレット用などの低質材を用いる製品が中心ですが、地域にはこの工場を含め2つしかないことから、注文を受けて様々な製材製品の加工を行っているようでした。少量でも注文があれば応じるという経営方針を受けてか、旧式の製材機を大切に使っているようでした。おがくずなどの廃材を使ってペレットも作っていました



写真-8 Technical Session の様子



写真-9 小径木をチップ化する小型の林業機械

が、自家用車で荷台を引いた顧客が工場まで買いに来ていました（写真-10）。ご自分で使うのか、それとも販売をするのかはわかりませんが、地域に欠かせない工場であることは確かなようです。

標高の高い山奥にまで足を運ぶと風光明媚な湖と豊かな森林が広がり（写真-11）、カヌーや釣り、ハイキングを楽しむことができる自然の豊かさを感じました。

短い時間の駆け足でのツアーでしたが、アメリカ合衆国中部の自然と森林、そしてそこに暮らす人々の生活を垣間見ることができました。

展示会と森林総合研究所 REDD 研究開発センターのブース

展示会は大会の後半3日間で、同じソルトバレスコンベンションセンター内に会場が設けられ、140あまりのブースが設けられました。大会のスポンサーとなっている団体や企業の展示のほかに、林学関係の学部を有する大学からの展示や森林、林業、林産業に関連する様々な企業、団体の展示がありました。アメリカ合衆国森林局（写真-12）や地理情報システムを開発・販売するESRI社（写真-13）など今回の大会の大口スポンサー



写真-10 木質ペレットを自ら運ぶ購入者

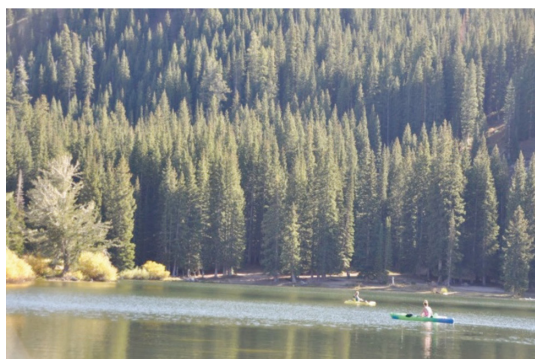


写真-11 Tony Grove Lake

は非常に広いスペースで展示していました。アメリカ合衆国森林局は森林火災対策に用いる巨大な消防用の車両を持ち込んでいました（写真-14）。森林火災対策が想像以上に大変な仕事であることを物語っているようでした。アメリカ合衆国の林学系大学からも多くの展示があ



写真-12 ホスト国アメリカ合衆国森林局の展示



写真-13 ESRI 社の展示



写真-14 巨大な消防用の車両（森林局）



写真-15 大学 (West Virginia University) の展示



写真-18 Center for International Forestry Research (CIFOR) ブースでインタビューを録画する様子



写真-16 大学 (Oregon State University) の展示



写真-19 次期世界大会開催国ブラジルの展示



写真-17 学術雑誌出版団体 (CSIRO Publishing) 展示

り、学生自らが参加して紹介したり、(写真-15)、企業顔負けの魅力的な展示を行ったりしていました(写真-16)。学術雑誌を出版する団体からの展示もあり、学術雑誌や学術書を手に取り、説明を求める様子も見られました(写真-17)。展示ブースでインタビューを録画している団体(写真-18)もありました。次の開催国であるブラジルのブースも設けられていました(写真-19)。木の文化を紹介する国際木材文化学会(International Wood Culture Society)の展示ではお茶席が設けられ、実際にお茶を頂いたり、木や竹を使った茶道具の展示に見入ったりする様子が見られました(写真-20)。

日本からは森林総合研究所 REDD 研究開発センターがその活動を紹介するブースを設けました(写真-21)。私も担当の一人として展示の説明をいたしました。非常に多くの方が訪れ、様々な質問や情報交換を行うこと



写真-20 国際木材文化学会が設けたお茶席（安部久氏（森林総合研究所木材特性領域）の御息が参加者にお抹茶を差し上げています）



写真-22 森林総合研究所 REDD 研究開発センター展示に訪れた参加者（写真提供：森林総研 金子真司氏）



写真-21 森林総合研究所 REDD 研究開発センターの展示準備中（右は古川拓哉氏（森林昆虫研究領域）、左は筆者）（写真提供：IUFRO-J 事務局）

ができました。最も多かったのは REDD*や REDD 研究開発センターの活動に興味関心のある方でした。森林と気候変動はやはりホットな話題であると感じました。その一方で、過去に日本に来たことがあるとか、日本で研修を受けたり、勉強したりしたことがある方々も立ち寄られました（写真-22）。日本での思い出や経験を楽しそうに教えてくれる方が数多くおられ、これまでの諸先輩方の貢献やその成果を知るとともに、来訪者からのこれまでの感謝と今後の期待の高さも感じました。

*：REDD (Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation in developing countries), 途上国の森林減少・劣化を防止し地球全体の温室効果ガス排出を削減する気候変動対策

日本の大学や研究機関等で学んだり働いたりする機会を知りたいという方も多くおられたことから、学会や大学、森林に関する団体などと共同で、日本で発行している学術雑誌、林学系の大学（院）教育プログラムなども紹介するブースを設ければよいのではないかと感じました。

おわりに

アメリカ合衆国では約 40 年ぶりに開催された IUFRO 世界大会の概要を紹介しました。私自身はマレーシア・クアラルンプールでの大会以来、3 回目の参加でしたが、なかなか会うことができない世界各国の森林関係研究者と知り合い、再会する絶好の機会となりました。次回はブラジルです。是非ご参加下さい。

関連する webpage

- ・第 24 回 IUFRO 世界大会
<http://iufro2014.com/>
- ・当日のプログラム（Scientific Program）やニュースレター（Media and news）、keynote の動画やインタビュー（blog）、写真、アブストラクト等が公開されています。例えば、
 - http://iufro2014.com/wp-content/uploads/2014/10/IUFRO3rdNewsletter_final.pdf
 - <http://blog.iufro2014.org/>
 - https://www.facebook.com/iufro2014/photos_stream
 - <http://www.iufro.org/events/congresses/2014/#c22279>

IUFRO 世界大会のテーマ “Forests for People” に参加して

森林総合研究所 多摩森林科学園

IUFRO Division 6.09 “Improving Education and Future Education in Forestry” Deputy Coordinator

井上真理子

ロスから飛行機を乗り換え、アメリカ西部の緑が少ない地域を飛ぶと、忽然と現れた街ソルトレイクシティ。そこで開かれた IUFRO 世界大会に参加してきました(写真-1)。今回の IUFRO では、持続可能な森林管理の実現のために自然科学 (Natural Science) と共に社会科学 (Social Science) が重視され、森林科学が果たす社会的な役割が強調されていたのが印象的でした。“Forests for People” は、世界大会テーマ (1. 人々のための森林 (Forests for People) 2. 生物多様性 (Forest Biodiversity and Ecosystem Services), 3. 気候変動 (Forests and Climate Change), 4. 水資源管理 (Forest and Water Interactions), 5. バイオマス (Forest Biomass and Bioenergy), 6. 林業・林産物 (Forests and Forest Products for a Greener Future), 7. 健全な森林 (Forest Health in a Changing World)), の筆頭に掲げられ、最も多くのテクニカルセッション (45 件 / 全 165 件) が設けられました。“Forests for People” として、教育 (Social Education, Forestry Education) やコミュニケーション (Knowledge, Exchange and Communication), 知の開発・統合・適応に参加すると、大学関係者に加えて、林業関連企業や行政担当者 (と思われる) 人による実践発表も行われていました (写真-2)。社会に対する研究の役割の必要性があるものの、新しい研究テーマとして森林科学研究の中でどう体系化してゆくかは、まだまだこれからの課題という印象でした。

私の専門である森林教育 (林業教育) では、専門教育 (大学教育) や林業従事者への普及・教育が主題であり、日本で行われている森林での体験活動を通じた森林環境教育や、木や木材とふれあう木育、幼児や障害者との教育活動、さらには指導者の教授方法や教育効果、環境教育への研究の広がりには至っていませんでした。同じ研究テーマに取り組む人との交流は、日本でも関係者が少ないので大変刺激的で、英語が苦手なものも忘れて楽しく参加しました。“Forests for People” に関わる研究では、その他にも、世界に先駆けて日本が研究を開始した森林セラピー研究、観光・レクリエーションなど、日本が研究成果を発信してゆくことで国際的に貢献できるニーズを感じました。

今回の IUFRO 全体では、日本人よりもアジア諸国の研究者の活躍の方が目立つ印象を受けました。日本人は、森林学会での活況を見ると、研究面でのポテンシャルが高い (と感じる) 割に、Division やワーキンググループを主導するコーディネータは少なく、受付などの運営を手伝っていた学生ボランティアもほとんど目につかず、寂しいと感じるのに対して、アジアからの学生が堂々と発表し、活動する姿を目にしました。国際的に日本の良さをアピールしていく必要があることを感じていたところ、森林教育の研究をしている珍しいアジア人として、Division 6.09 “Improving Education and Future Education in Forestry” の Deputy Coordinator の一人と



写真-1 IUFRO 閉会式にて - 各 Division のコーディネータは左側の 9 名



写真-2 Extension (普及) での発表のひとつ。研究者が一般の人に難しい話をしている時の聴衆の心境をあらわしたイメージ図。ユーモアたっぷりのプレゼン

して声をかけてもらいました。慣れない英語漬けの頭痛と、重責と英語への恐怖に怯えつつ、往復共に遭遇した

季節外れの台風の中で帰国の途につきました。
次は、是非ブラジルでお会いしましょう。

ユフロ第5部門「林産物」、大会テーマ“Forests and Forest Products for a Greener Future”から IUFRO-Japan の皆様へ

オクラホマ州立大学 Department of Natural Resource Ecology and Management,
IUFRO Division 5.05 “Composite and Reconstituted Products” Coordinator
Salim Hiziroglu

第24回ユフロ世界大会がアメリカ合衆国ユタ州ソトレイクシティで開催されました。ご存知の通り、IUFROには、森林研究のさまざまな分野に対応して多くの部門*があります。

私は2000年以降、第5部門「林産物」下の、5.05: Composite and Reconstituted Products (複合材および再構成材料)に携わってきました。この分野は、さまざまな国の多くの科学者を魅了しています。米国において林産教育プログラムが多くの高等教育機関で消えていると思っている人達がいます。一部の機関にとって、それは真実であるかもしれませんが、しかしながら、個人的には、私は、古典的な林産教育プログラムが、時勢に適応して進化したプログラムに変化を遂げたと考えています。例えば、バイオコンポジット、グリーンエネルギー等、さらに多くの魅力的なカリキュラムが今日の環境に合わせて提供されています。もちろん、どの国でも林産物に関する関心の変動はありますし、それに驚いてはいけません。私は、林産物が、IUFROの重要なkey stoneだと強く信じています。そして、そのkey stoneは将来もその位置を動くことはないでしょう。

さて、以下の通り、私がコーディネートした5.05の世界大会セッション258「Bio-Based Composite and Engineered Products from Wood and Non-Wood Forest Resources」(10月6日、15:30-17:40 pm)の様子を紹介します。合計30人の参加者がセッションに参加しました。第24回世界大会テーマでは、Forests and Forest Products for a Greener Futureに相当します。

最初の口頭発表は、Robert Erickson博士(ミネソタ大学、アメリカ合衆国)で、エンジニアードウッド・木質複合軸材料の製造に関し、技術面とコスト面の両面か

ら解説がなされました。次に、Yuliati Indrayani 博士(Tanjunpura University, 西カリマンタン、インドネシア共和国)が、レッドメランチ天然木と造林木のパーティクルボード製造に関する口頭発表を行い、その際に複合パネルに用いられる接着剤の使用と原材料の密度との関係に関する質問がなされました。最後の口頭発表は、スーダンからのZeinab Osman博士が当日不参加だったため、Brian Via博士(Auburn University, アメリカ合衆国)が代わって行いました。彼は、森林資源をバイオオイルに変換する液化と熱分解についての話題を提供しました。その後、10分間の質問と議論セッションが開催されました。口頭発表に加え、5人のポスター発表者がそれぞれ約10分で彼らの研究プロジェクトの概要を紹介し、1個ずつ質疑応答を行いました。セッションの閉会時に、2017年カナダブリティッシュコロンビア州バンクー



写真-1 In-Congress Tourの様子(第24回世界大会は、10月8日に27種類のIn-Congress Tourを設置し、多様な参加者同士の交流を促していました)

* : IUFRO Divisions, IUFRO 本部紹介参照 (p.15)。

バーで開催される第5部会の全体会議と、2019年にブラジルのクリチバで開催される第25回世界大会のアナウンスがなされました。また、2014年10月6日の12:50 pmには、Division 5.05の短いBusiness Meeting

も設けられました。

では、2017年のカナダでの第5部会林産部門全体会議で、また皆様にお会いしましょう。

翻訳：川元スミレ（IUFRO-J事務局）

IUFRO World Congress 2014に参加して — genderの視点から—

森林総合研究所 企画部 男女共同参画室
森林管理研究領域 環境計画研究室併任
宮本麻子

2014年10月5日から11日アメリカ、ソルトレイクシティにて第24回目の世界大会“Sustaining Forests, Sustaining People: The Role of Research”が開催された。今回、筆者は東北地方のブナ林地帯を対象として、国有林史料を用いた景観史、特に国有林の計画と景観の変遷、住民利用に関する報告を行ったこともあり、テクニカルテーマ1 Forests for Peopleに関連が深いDivision 6: Social Aspects of Forests and ForestryおよびDivision 9: Forest Policy and Economicsに関わるセッションを中心に参加した。参加できた限られたセッションからの雑駁な所感にはなるが、以下、genderの視点から感じたところを述べてみたい。

全体として印象的だったのは、単純ではあるが女性の参加者が多い、ということであった。国内で開かれる学会でよく見られる男性ばかりの会場にまばらな女性参加者という光景にはまずお目にかからず、多い場合は聴衆の半数以上が女性、少なくとも3割程度の聴衆は女性で占められており、質疑も大変活発に行われていたのが印象的であった。コーディネーターが女性、講演者も女性と男性がほぼ半々としてある場合が多く見受けられ、実情はわからないが、世界の女性研究者の比率からすると、講演者の地域はもとより、性別についてもなんらかの配慮がなされているのではないかと推察された。gender研究に詳しい方に聞いたところによると、欧米では社会学への女性の進出が目覚ましく、その関係もあり、Division 6や9のセッションでは女性の参加者が多いのではないかと、ということであった。

大会中に行われたプレナリーセッションの一つである“The People and Forest Trajectory-1994-2014 and Beyond”では、Carol J.P. Colfer博士によりGender Issueが大きく取り上げられ、森林と女性の関わりの中

要性が提起された。女性が森林の利用に関して多くを担いながらも見えない存在として扱われることは、人類の半数の潜在的な貢献を無視していることであり、我々は、女性と男性それぞれの能力等を活かした森林との関係を構築できるし、すべきであるという。Colfer博士の10月10日基調講演は以下ユフログyoutubeで紹介されている。

<https://www.youtube.com/watch?v=36gmKt09lpc>

インコングレスツアー“Tourism and Recreation Management”では、ソルトレイクシティの水源林であるWasatch Front WatershedのSilver Lakeを散策しながら水源林としての重要性や生態系保護についてレクチャーを受けた後、スキー場を見学し、都市近郊に位置づく森林の利用と計画について話を聞く機会があった(写真)。半日程度の短い行程だったせいか、ベビーキャリアで乳児を抱きながら参加する者やお腹の大きな女性も見られ、多様な状況下にある者が参加しやすい土壌が形成されつつあるのを感じた。

前回2010年に韓国で開催された世界大会時に



写真-1 Silver Lakeの遊歩道を散策する参加者達

Gender Issue はどのように扱われていたか？ 振り返ってみると、正直あまり記憶がないため、今回受けた印象が、開催国であるアメリカ合衆国の gender 意識を反映しているのか、世界全体の gender に対する潮流からく

るものなのかはよくわからないが、世界の gender を肌で感じる大変有意義な機会を得ることができた。次回の世界大会は 2019 年、ブラジル、クリチバで開催予定であり、5 年後の変化が楽しみである。

IUFRO 本部紹介

1) IUFRO 部門

IUFRO 本部は、以下 9 個の部門 (Scientific Divisions) で構成されています。各部門は、研究グループや関連専門委員会における研究者同士の共同研究をサポートし、それらの研究グループと IUFRO Board との組織間の連携を高める機能を果たしています。

- Division 1 – Silviculture
- Division 2 – Physiology and Genetics
- Division 3 – Forest Operations Engineering and Management
- Division 4 – Forest Assessment, Modelling and Management
- Division 5 – Forest Products
- Division 6 – Social Aspects of Forests and Forestry
- Division 7 – Forest Health
- Division 8 – Forest Environment
- Division 9 – Forest Policy and Economics

詳細は、以下にリンクして下さい。

<http://www.iufro.org/science/divisions/>

2) IUFRO Task Forces

タスクフォースの目的は、特定の研究領域で IUFRO 活動を強化することです。進行中の国際化プロセスと活動に貢献します。

- International Forest Governance
- Resources for the Future
- Forest and Water Interactions
- Biodiversity and Ecosystem Services
- Forest Bioenergy
- Forests and Climate Change
- Forests for People
- Education in Forest Science
- Traditional Forest Knowledge
- Forests and Human Health
- Former Task Forces

詳細は、以下にリンクして下さい。

<http://www.iufro.org/science/task-forces/>

事務局からのお知らせ

1. IUFRO-J 名称と目的

IUFRO-J は国際森林研究機関連合—日本委員会の略称です。IUFRO 本部の目的に沿って、その事業に協力するため、国内の森林・林産業に関連する研究機関の相互連携を図るとともに、IUFRO 本部に関連する諸活動に貢献することを目的としています。本会の趣旨に賛同する機関・団体または個人が IUFRO-J の会員になることができます。以下リンクをご参照下さい。

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/kaisoku.htm>

2. IUFRO-J 研究集会事務局・参加助成の募集について

平成 28 (2016) 年 3 月までに開催される IUFRO 関連研究集会に対して事務局・参加助成を行います (参加の場合は海外での集会のみです)。希望者は平成 26 (2014) 年 12 月末日までに、規定の書式にしたがい助成申請を提出してください。申請書の様式は下記のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/jyosei.htm>

3. IUFRO-J 平成 27 年度機関代表者会議のご案内

第 126 回日本森林学会大会が北海道大学で 2015 年 3 月 26 日 (木)～29 日 (日) の日程で開催されます。それにあわせて表記会議を開催致しますので、機関代表者の方のご参加をお願いいたします。

日時：2015 年 3 月 26 日 (木) 15 時～16 時を予定

場所：北海道大学 (詳細は未定)

議題：会務報告、会計決算報告、監査報告、事業計画案、予算など

4. お願い

メールニュースにつきましては、平成 26 年 3 月 29 日に開催されました代表会議の決定事項により、IUFRO-J 会員相互の情報共有を促進するため、メールアドレスを事務局にご登録いただきましたすべての IUFRO-J 会員の方々に配信しております。メールニュースの配信を希望される方は事務局までご連絡ください。

第 24 回 IUFRO 世界大会（2014 年 10 月 5 日～ 11 日）閉会式にて

森林の維持，人々の維持：研究の役割
ソルトレイクシティ宣言



XXIV IUFRO World Congress
5-11 October 2014, Salt Lake City, Utah, USA
Closing Ceremony

**SUSTAINING FORESTS, SUSTAINING PEOPLE: THE ROLE OF RESEARCH –
THE SALT LAKE CITY DECLARATION**

Forests and trees play a critical role in supporting the livelihoods and quality of life of people worldwide, providing income opportunities, sustaining agricultural productivity, food security and nutrition, providing adequate supplies of clean water, affordable and sustainable sources of renewable energy and forest-based products. Forests and trees also hold the key to our future well-being, improving the environmental quality of growing urban centers, contributing to the mitigation of, and adaptation to, climate change, and the conservation of our planet's biodiversity upon which our survival will ultimately depend.

The 24th World Congress of the International Union of Forest Research Organizations (IUFRO) "Sustaining Forests, Sustaining People: The Role of Research" brought together 2,500 scientists from more than 100 countries, and 1,200 professional foresters from North America. It provided a unique forum for presentation and discussion of current and future global research needs in forest science. The Congress explored the role of science in crafting practical measures to enhance the resilience of forests and their capacity to provide the environmental, economic, social, cultural, spiritual and health benefits that sustain rural and urban societies worldwide.

Based on this World Congress, IUFRO commits itself to expand and intensify its efforts to develop and promote integrated solutions to the interrelated economic, social and environmental challenges we must face together. These efforts will also inform the discussions that will take place next year at the XIV World Forestry Congress 2015 and other important gatherings, including the United Nations Forum on Forests, which will promote ongoing efforts towards achieving a coherent and integrated development agenda beyond 2015.

Pursuing these goals will require effective collaboration among people across landscapes, sectors and disciplines. During the next five years, IUFRO is committed to building on the strengths of its current global network. In particular, IUFRO will expand its interdisciplinary research and partnerships with scientists in related fields, and broaden its dialogue with, and service to, other organizations, communities, land managers and policy-makers.

The need for international cooperation in forest research and the dissemination of research findings has never been greater. As the global network for forest science, IUFRO shall do its utmost to meet this need.

IUFRO-J News No. 113 平成 26 年 12 月 15 日

国際森林研究機関連合 – 日本委員会事務局

〒 305-8687 茨城県つくば市松の里 1

森林総合研究所 国際連携推進拠点

TEL 029-829-8327

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/iufroj/>

iufro-j@ffpri.affrc.go.jp

〔編集・発行〕